

● Information

非常用持ち出し袋

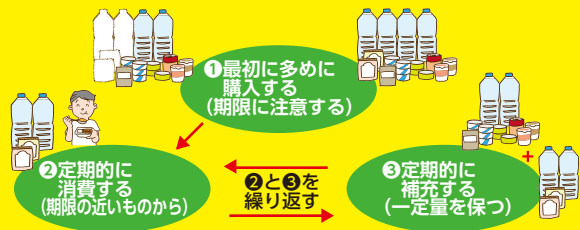
避難したときに最低限必要になるものを集めた持ち出し袋を用意しておくとう便利です。基本的には自分にとって必要なものを中心にそろえましょう。リュックなどに入れ、玄関近くや寝室に置くとう便利です。

- 【例】
- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> 電池 | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> ヘルメット | <input type="checkbox"/> 軍手 |
| <input type="checkbox"/> 衣類 | <input type="checkbox"/> 救急箱 |
| <input type="checkbox"/> 食料品 | <input type="checkbox"/> 水 |
| <input type="checkbox"/> 印鑑 | <input type="checkbox"/> 預金通帳 |



ローリングストック法

日常使っている飲食物を多めに購入し、消費した分を補充することで常に一定の備蓄量が確保できる方法です。無理なく始めることができます。



ハザードマップ

3月中旬、各世帯にハザードマップを配布しています。地震や風水害など災害から身を守る方法を確認しましょう。不明点は役場総務課にお問い合わせください。



町が発令する避難情報に注意

発令前でも危険を感じたら自主避難をしましょう。災害時は防災無線のほか、「からいも君メール」、町ホームページでもお知らせします。



- いつでも避難できるように準備。避難に時間がかかる人(高齢者など)は避難を開始しましょう。
- 避難所などの安全な場所へ速やかに避難しましょう。
- 人的被害の危険性が高い。直ちに避難しましょう。外出が命の危険にかかわる状況では自宅内の安全な場所に避難しましょう。

● Interview



大津町消防団 副団長 古庄 政広さん

平成24年九州北部豪雨時に大津町消防団第6分団の団員として出動し、現在は同消防団の副団長を務める古庄政広さんに災害時に気づいたこと、備えについてお話を聞きました。

普段の景色が一変

6年前の「平成24年7月九州北部豪雨」では地元第6分団の消防団員として決壊した河川の補修用の土のう作りなどで活躍したという古庄さん。

分団が担当する北部・平川地区は町内の被害が大きかった地域の一つ。団員への招集命令がかかり駆けつけたときには、普段水のほとんど流れていない平川は橋の下まで増水しており、時おり水の中から岩が転がる「ゴォォ」という低い音が鳴り響いていたといいます。「平成24年7月九州北部豪雨は予想を超えた雨になりました。「経験したことのない雨量」と当時の気象庁が発表したように、本当に雨が降りしきっていました

自助で備える大切さ

「以前の経験から第6分団では常に土のうを作って備えるようになりました。同じように食料品や、生活用品などを備えていれば、災害へ気持の準備ができ、あわてなくなりそうです。今からでも始めてみることをお勧めします」。

私たちにもできること

「地域の中で顔見知りが増えれば防災力の向上につながります。災害を乗り越え、地域の団結力は上がった気がします。人同士のつながりが強くなると自然と助け合いの気持ちは生まれますから」と古庄さんは目を細める。

災害で備えるのは食料品や生活用品だけではありません。人と人とのつながりを作ることも立派な災害への備えの一つです。まずは、近所の人へのあいさつ、日持ちする食料品をちよっと多めに買うなど、できることから始めませんか。



もしもに備える



平成24年7月九州北部豪雨時 (真木地区)

私たちは「平成28年熊本地震」を経験しました。「平成24年7月九州北部豪雨」も経験しました。「きちんと備えておけばよかった」と後悔したことはありませんでしたか。

これからの季節は、梅雨や台風の時節に入ります。大雨、暴風の被害を少しでも少なくするために、日ごろの備えや心構えを一緒に確認しましょう。

風水害は事前の備えが大切



風水害は天気予報などの情報があればある程度は備えることができます。梅雨前線が停滞することになればその地域は大雨の可能性が高まります。また、過去30年間の平均では年に25個の台風が日本列島付近で発生しています。接近すれば、暴風・大雨となり、河川の氾濫の可能性もあります。常に最新の情報を確認し、過去に土砂災害があつてい場所や河川の氾濫などの特に危険性が高い場所については「雨の降る前」に確認をしておきましょう。

また、浸水時の歩行可能な水位目安はひざ下までです。一見すると水位が低く安全そうに見えても水の勢いで動けなくなったり、転倒したりする危険があります。急傾斜地などに住んでいる皆さんは降雨状況などを確認し、早めの避難を検討してください。

台風・雨雲が接近する前に



- 家の点検をしましょう
窓や雨戸を閉め、風で飛ばされそうなものは固定するか、屋内に入れましょう。
- 屋外の排水設備の点検をしましょう
雨水ますなどにごみが溜まると浸水の危険性が高まるので掃除をしましょう。
- 停電・断水に備えましょう
懐中電灯、電池や飲料水、生活用品を準備しましょう。

台風・雨雲が接近したら



- 水路・河川・田畑の見回りは危険
大雨と堆積した土砂により、水路や河川は急に増水する可能性があります。また、田畑の見回りも水路や河川の氾濫に巻き込まれる可能性があります。
- 屋外や高所の作業は危険
高所での作業は、突風で転落する可能性があります。屋外の作業も、風で飛ばされたものが飛んでくる可能性があるのを控えましょう。

もしも避難をする時は



- 正しい情報を知る
間違つた情報で行動すると危険性が高いので、行動をする前に、停電時でも使える電池式、または充電式のラジオやテレビ、町や消防署のホームページを確認してください。
- 家族や身の回りの状況を確認
災害はいつ起こるか分かりません。避難するときの決まりを家族同士であらかじめ決めておき、備えておく必要があります。また、家の状況も確認し、漏電、火災、水漏れなどの危険がないかを確認し、二次災害を防止することも大切です。
- 近所の安否確認
できれば隣人・近隣の住民の安全確認をすることも必要です。いざというときに助け合うために日頃から顔を合わせる関係を築くことも大切です。